

食物アレルギーを正しく知って 上手に付き合おう！

～経口食物負荷試験のご案内～

食物アレルギーとは

食物アレルギーは、乳児で約5～10%、小学生以降で約1～2%程度に見られると考えられています。アレルギー反応を起こす恐れがある食べ物(原因食品:アレルギー)を食べると異常な免疫反応を介して様々な症状が現れ、生活に支障をきたします。時には生命を脅かす重篤な反応(アナフィラキシー)を起こすこともあります。しかし、食事制限(除去食)ばかりしていると生活や健康上問題がおきることもあるため、正確に診断し、適切な食事療法を行うことが大切です。

食物アレルギーの診断方法

一般には、食物アレルギーを疑った場合、皮膚テスト(プリック)や血液検査(特異的IgE抗体、ヒスタミン遊離試験)を実施します。しかし、皮膚テストや血液検査の結果が症状と一致しないことがあり、次のような場合には、**経口食物負荷試験**が必要です。

①原因食品(アレルギー)の診断

症状(たとえば、じんましんや嘔吐下痢など)が食物アレルギーによるものかどうかを確認する。

②耐性獲得の判定

除去食を続けている人が、成長に伴って食べることができるようになったかどうかを調べる。

経口食物負荷試験

除去食の必要性を判断するうえで最も正確な検査です。原因食品を実際に食べてみて、症状が誘発されないかどうかを調べます。検査中に重篤な反応(アナフィラキシー)を起こす危険性もあるため、注意深く観察を行うことが必要です。

食物アレルギーによる症状

●皮膚粘膜症状

- ◎皮膚症状：じんましん、赤くはれる、痒み
- ◎眼症状：充血、かゆみ、まぶたのはれ
- ◎口腔咽喉頭症状：
唇のはれ、のどの痒み、イガイガ感、
声がかすれる

●消化器症状

- ◎腹痛、嘔吐、下痢、血便

●呼吸器症状

- ◎上気道症状：くしゃみ、はなみず、はなづまり
- ◎下気道症状：呼吸困難、せき、
ぜん鳴(ゼーゼー、ヒューヒュー)

●全身性症状

- ◎アナフィラキシーショック：
頻脈、虚脱状態(ぐったり)、意識障害、
低血圧

即時型反応

⇒原因食物摂取後2時間以内に起こる反応

非即時型反応

⇒原因食物摂取後2時間以上経過からして
起こる反応

**当院では外来で半日や日帰り入院
(必要時は一泊など)で行っています。
症状や御家族の希望にあわせ、相談
の上決定します。**